

〔令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果〕

保護者の皆様におかれましては、日ごろより本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、心から感謝申し上げます。

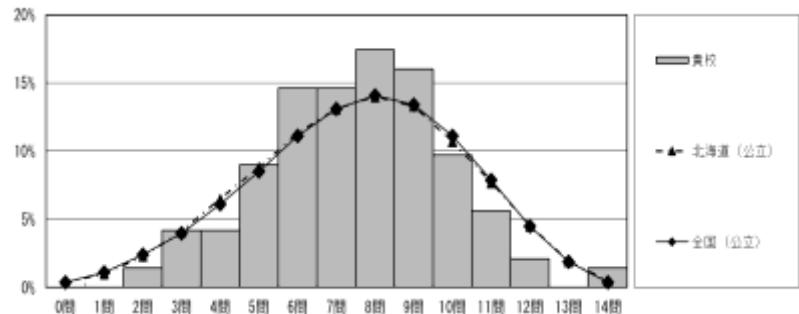
さて、本年4月に実施いたしました全国学力・学習状況調査の本校の結果がまとまりましたので、その概要をお知らせいたします。本校では、この調査結果を踏まえ、本校生徒の学力向上に向けた行動プランを作成し、学校の教育計画や日常の授業の改善に取り組んでまいります。

中学校国語

全国の平均正答率と比較して、ほぼ同様の結果でした。

1. 正答数の分布

正答率70%以上（正答数が14問中10問以上）の生徒の割合は全国と比較して相当低く、正答率30%以下（正答数が14問中4問以下）の生徒の割合はやや低い結果でした。つまり上位と下位の生徒が少なく、中位の生徒が多い傾向にありました。



2. 本校で正答率が最も高かった問題

問題番号	平均正答率		問題の概要	出題の趣旨
	本校	全国		
3二	96.5%	89.9%	「兄」と「弟」が、物語の中でどのような性格の人物として描かれているかを書く。	文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができるかどうかを見る。

〔設問と解答の分析〕

□3 次の文章は、島崎藤村が書いた「二人の兄弟」という物語です。この物語は、「一 榎木の実」、「二 釣の話」で構成されています。これを読んで、との間に答えなさい。

（島崎藤村「二人の兄弟」による。）

二 下線部①「二人の兄弟」は、この物語の中でどのような性格の人物として描かれていますか。「一 榎木の実」と「二 釣の話」を通して分かる性格を、それぞれ書きなさい。

正答例

兄（例）気が長い

弟（例）気が短い

正答率 96.5%

無解答率 1.4%

本校の子ども達の多くが、文章全体と部分との関係に注意しながら登場人物の設定の仕方を捉え、「兄」が「気が長い」性格、「弟」が「気が短い」性格の人物として設定されていることを読み取ることができました。さらに読み取った性格をそれぞれ適する語句で表現することができました。国語科の授業において読解について丁寧な指導を積み重ね、朝読書など日ごろから読書に親しむ環境を整えてきました成果と受け止めています。

3. 本校で正答率が最も低かった問題

問題番号	平均正答率		問題の概要	出題の趣旨
	本校	全国		
3四	14.6%	17.1%	「一 檜木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとどのように考えた理由を書く	文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる

〔設問と解答の分析〕

□3 次の文章は、島崎藤村が書いた「二人の兄弟」という物語です。この物語は、「一 檜木の実」、「二 釣の話」で構成されています。これを読んで、との問いに答えなさい。

(島崎藤村「二人の兄弟」による。)

四 点線枠で囲まれた部分には、兄弟が目的を達成できなかった場面のあとに続く話が書かれています。あとに続く話は、「一 檜木の実」にはありますが、「二 釣の話」にはありません。このような展開になっていることは、「二人の兄弟」という物語においてどのような効果があると考えますか。あなたの考えとその理由を具体的に書きなさい。理由を書く際には、物語の内容を取り上げて書きなさい。

正答例

読者の意表を突く効果がある。なぜなら、「一 檜木の実」には、失敗した兄弟が、お爺さんのおかげで成功する場面が書かれているため、「二 釣の話」も同じような展開になると予想して読み進める読者が多いと思うからだ。

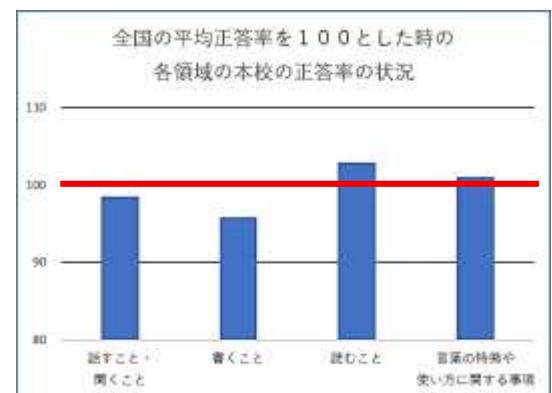
正答率 14.6%

無解答率 29.2%

子ども達の解答を見ると、文章の展開の効果について書くことができても、この問題で着目している展開を踏まえて書くことに課題が見られました。また無解答率も全国より高く、問題の理解に難しさを感じた子ども達も多数いたと考えられます。

4. 指導改善に向けて

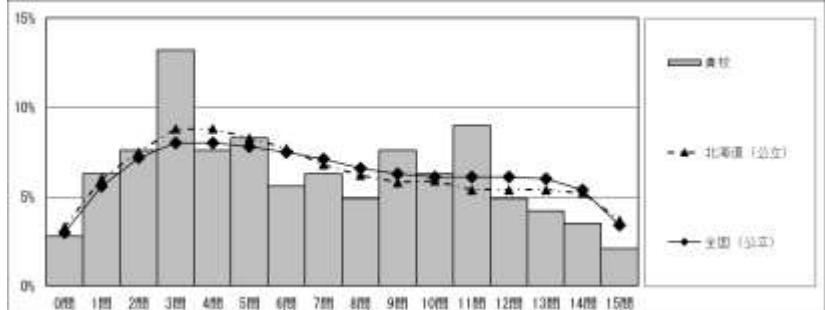
- 「読むこと」の内容では、文章全体と部分との関係に注意しながら登場人物の設定の仕方を捉えることができ、また表現の効果について根拠を明確にして考えることができていました。
- 「書くこと」の内容では、特に目的に応じて集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることに課題がみられました。



- 国語の授業や本校の特色である「朝読書の取り組み」、生徒会図書委員の取り組みなど、生徒が文章や読書に親しむ取り組みを通して、引き続き「読む力」の土台づくりに取り組んでいきます。
- ICT機器を活用したり、対話によって考えを広げたりすることを通して、特に「書くこと」の授業において、子ども達が目的や意図に応じて伝えたいことを明確にできるような学習を進めます。

1. 正答数の分布

正答率 70% 以上（正答数が 15 問中 1 問以上）の生徒の割合は全国と比較してやや低く、正答率 30% 以下（正答数が 15 問中 5 問以下）の生徒の割合は高い結果でした。つまり上位や中位が少なく、下位の生徒が多い傾向にあります。



2. 本校で正答率が最も高かった問題

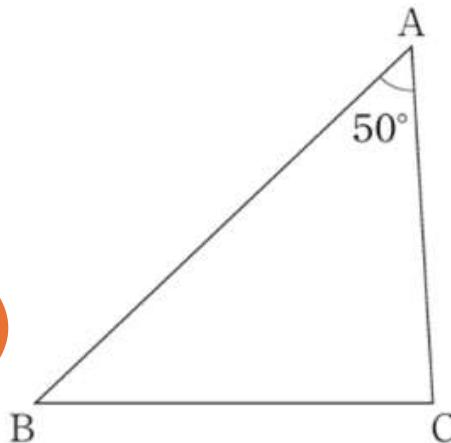
問題番号	平均正答率		問題の概要	出題の趣旨
	本校	全国		
3	77.1%	58.1%	△ABCにおいて、∠Aの大きさが50°のときの頂点Aにおける外角の大きさを求める	多角形の外角の意味を理解しているかどうかを見る

〔設問と解答の分析〕

3 下の図の△ABC で、頂点 A における外角の大きさを求めなさい。

正答 130 度

正答率 77.1%
無解答率 0.0%



この設問は図形の性質を考察する場面において、①事象の特徴を的確に捉えること、②多角形の外角の意味を理解していることをみる設問です。本校の子ども達の約 8 割が外角の意味を理解していることがわかりました。数学科の授業において学習支援員や特別支援員を活用したチーム・ティーチングや習熟度別学習を進めてきた成果と受け止めています。

3. 本校で正答率が最も低かった問題

問題番号	平均正答率		問題の概要	出題の趣旨
	本校	全国		
6 (2)	16.7%	25.7%	3nと3n+3の和を2(3n+1)+1と表した式から、連続する二つの3の倍数の和がどんな数であるかを説明する	式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見いだし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかを見る

[設問と解答の分析]

(2) 連続する2つの3の倍数の和は、9の倍数になるとは限らないことに気づいた二人は、連続する2つの3の倍数の和がどんな数になるかを調べることにしました。
そこで、二人は、nを整数として、連続する2つの3の倍数を3n、3n+3と表してそれらの和を計算し、それぞれ次のように式を変形しました。

結菜さんの式の変形の $3(2n+1)$ から、「連続する2つの3の倍数の和は、3の倍数である」ことがわかります。

太一さんの式の変形の $2(3n+1)+1$ から、連続する2つの3の倍数の和は、どんな数であるといえます。「～は、～で～ある」という形で書きなさい。

結菜さんの式の変形

$$\begin{aligned} 3n + (3n + 3) \\ = 3n + 3n + 3 \\ = 6n + 3 \\ = 3(2n + 1) \end{aligned}$$

太一さんの式の変形

$$\begin{aligned} 3n + (3n + 3) \\ = 3n + 3n + 3 \\ = 6n + 3 \\ = 2(3n + 1) + 1 \end{aligned}$$

正答例

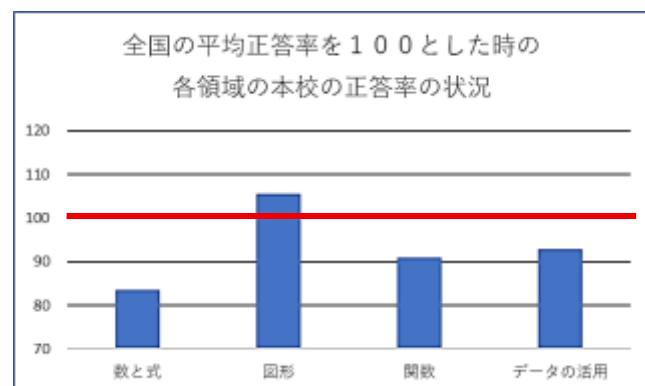
連続する2つの3の倍数の和は、奇数である。

本校の子ども達の解答を見ると、 $2(3n+1)+1$ からは読み取れない「～は、～で3の倍数である」という記述が多く目立ち、式の意味を読み取ることに課題が見られました。またこの問題の無解答率が全国より高く、他の記述解答の設問でも無解答率が全国より高い傾向にあり、自分の考えを表現することに課題が見られました。さらに条件を満たさない解答も見られ、問題の意味や解答の条件を理解できなかったことも考えられます。

正答率 16.7%
無解答率 32.6%

4. 指導改善に向けて

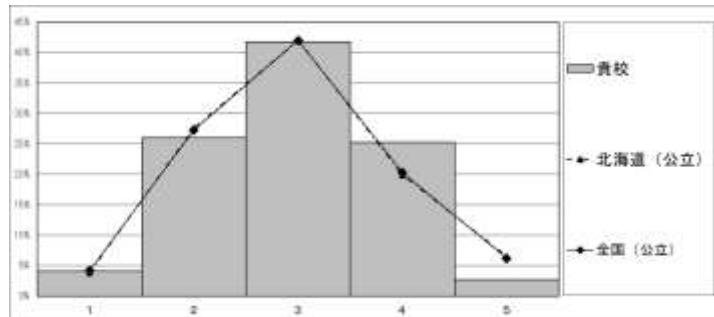
- 「図形」の内容は、他の内容（数と式・関数・データの活用）と比較して正答率が高い傾向にありました。基本的な平面図形の性質について、数学的な活動を通して身につけることができていたからと考えられます。
- 「数と式」の内容では、式の意味を読み取ったり、成り立つ事柄を見いだしたり、目的に応じて式を変形したり、すること等に課題がみられました。また記述問題での無回答率が全国より高い傾向にあり、数学的な表現を用いて説明したり、事柄が成り立つ理由を説明したりすることに課題がみられました。



- 数学科の授業では学習支援員や特別支援員を活用したチーム・ティーチングや習熟度別学習を今後も進めていきます。そして学習につまずいている子どもへのサポートや丁寧な指導を積み重ね、特に「数と式」の基礎・基本の確実な定着を目指します。
- 自分の考えを表現できるように、問われている内容や解答の条件をしっかり理解する⇒問われている内容や条件に合わせて自分の考えを書く…のような記述力を高める学習活動を進めていきます。

1. IRT バンド

本校生徒のスコアの分布を全国と比較すると、4段階が多く、5段階が少ない状況です。1～3段階はほぼ同じでした。



※今回から CBT (コンピューター使用型調査) に変更されました。IRT (項目反応理論) を活用し、生徒の正答・誤答が問題の特性によるのか、生徒の学力によるのかを区別して分析し、生徒の学力を推定して IRT スコアとして示されます。IRT バンドとは、IRT スコアを1～5の5段階に区切ったもので、平均バンドは3で、最も高いバンドが5です。

2. 本校で最も正答率が高かった問題

問題番号	平均正答率		問題の概要	出題の趣旨
	本校	全国		
□ 2 (2)	97.9%	94.6%	「Web ページの情報だけを信用して考察してよいか」について判断し、その理由として適切なものをすべて選択する	ストローの太さと音の高低に関する情報を収集してまとめを行う学習活動の場面で、収集する資料や情報の信頼性についての知識及び技能が身に付いているかどうかを見る

〔設問と解答の分析〕

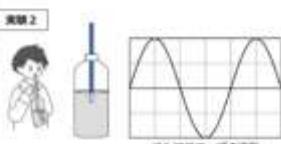
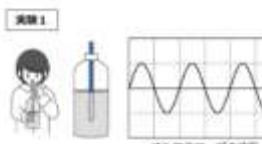
2

理科の授業で、ストローに水の入っているペットボトルで楽器をつくり、音について科学的に探究しています。

(1) (2) の複数に選ぶべきです。

ストローを上下に動かしたら音が変わりました。
ストローの中にある空気を動かすと音が変わるのは、ストローの中の空気が振動したからですね。
音の振動の様子をオシロスコープで調べてみよう。

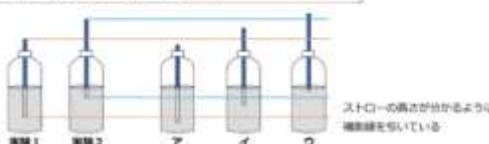
【実験】「ストロー内の空気が入る長さ (■の部分)」を変えて実験を行った時のオシロスコープの波形を観察しました。



右のように【考察】しました。

【考察】
「ストロー内の空気が入る長さ (■の部分)」が、長くなれば、音はだんだん低くなる。

【考察】をより確かなものにするために、あと1つ実験を行うよといいます。
次のA. イ. ウの中で実験を行はよいかね。



【課題】
ストローの太さを変えるたら、音の高さは変わるのでしょうか。

【課題】
を解決するために、右のWebページの情報から、考察しようと思います。



Webページ

(2) 下の問題について、適切なものをすべて選んでください。

- Webページの情報はすべて信用できるもので、この情報だけで考察してもいいと思います。
- Webページの情報は半て信頼できるもので、考察を行なう義務性はない。
- Webページの情報は信用できるものばかりではないので、学術的根拠や専門書なども調べ、考察をします。
- Webページの情報は信用できるものばかりではないので、実験を行ない、その結果から考察をします。

正答

- ・ Cのみ
- ・ Dのみ
- ・ CとD

正答率 97.9%

無解答率 0.0%

本校の子ども達の多くが、ストローの太さと音の高低に関する情報について「Web ページの情報はすべて信用できるものばかりではない」と指摘することができ、また自ら実験を行いその結果から考察し、さらに書籍等からの情報で確認することの重要性を理解していました。このことから理科の授業において、収集する資料や情報の信頼性を確認する方法についての知識及び技能がしっかりと身に付けています。

2. 本校で最も正答率が低かった問題

問題番号	平均正答率		問題の概要	出題の趣旨
	本校	全国		
□ 2 (1)	7.5%	14.0%	【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する	【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうかを見る

〔設問と解答の分析〕

2

理科の授業で、ストローに水の入っているペットボトルで実験をつくり、音について科学的に探求しています。

(1) (2) の各問いに適切な選択肢。

ストローを上下に動かしたときに音が変わったと音が鳴るときは、ストローの中の音が振動したからだよね。

音の振動の様子をオシロスコープで調べてみよう。

【実験】「ストロー内の空気が入る長さ () の部分」を変えて実験を行ったときのオシロスコープの波形を観察しました。

実験1
実験2
オシロスコープの波形

実験1
実験2
オシロスコープの波形

右のように【考察】しました。

【考察】「ストロー内の空気が入る長さ () の部分」が、長くなっただけで、音はだんだん低くなる。

【考察】をより確かなものにするには、あと1つ実験を行おうといいます。次のア、イ、ウのどれで実験を行えばよいのかね。

ア
イ
ウ
ストローの音が低くなるように補助線を引いている。

(1)

下線に決めて、【考察】をより確かなものにするために1つ実験を追加するとして、上のア、イ、ウのうち、あなたはどの実験を追加しますか？ 1つ選んでください。

上のア、イ、ウのどの実験を選んでどちらか選んでください。

また、まだ他の実験を行ったときに、オシロスコープの波形から何か分かることがあります。波形と1つ目を振りて書きなさい。

選んだ実験： 選んだ理由：

何かねばよいこと

□ あなたは、この問題を解くときに、以下のことを意識しました。

□ 1. 実験の条件を変えて、現象を観察する。
□ 2. 実験の結果を観察する。
□ 3. 実験の結果を記述する。
□ 4. 実験の結果を説明する。

正答

○アを選択し、振動数という言葉を使用している
(例) 実験1、2より振動数が多いことが分かればよい。

○イを選択し、振動数という言葉を使用している
(例) 実験1より振動数が少なく、実験2より振動数が多いことが分かればよい。

○ウを選択し、振動数という言葉を使用している
(例) 実験1、2より振動数が少ないことが分かればよい。

本校の子ども達の解答を見ると、選択した実験について条件を満たしていない記述が多くありました。条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明することに課題がみられます。無回答率は全国を上回っているものの、他教科の記述問題の無回答率より低い傾向が見られました。

正答率 7.5%
無回答率 2.7%

4. 指導改善に向けて

○「エネルギー」を柱とする領域においては、情報を収集してまとめを行う学習活動の場面で、収集する資料や情報の信頼性についての知識及び技能が身に付いていました。一方、知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明することに課題が見られました。

■今後も理科の授業において、考察の妥当性を検討し、探究の過程を振り返り、探究の過程を調整して実験を計画することを大切にしていきます。またその際にWebページ等の情報を適切に活用できるような指導を行っていきます。様々な活動を通して自然の事物・現象に疑問をもたせたり、考察の妥当性を高めるための実験や情報収集を行ったりする学習場面を設定していきます。